

たけのこ園農林水産大臣賞



受賞した吉田定さんのたけのこ園。円内が吉田さん

熊本県たけのこ園経営管理コンクールで吉田定さん（島木）が農林水産大臣賞を受賞されました。山都町からは渡邊宏治さん（北中島）も奨励賞を受賞されました。

受賞された吉田さんの園地は、数年前まで放置されていた竹林でしたが、一念発起し管理を再開されたとのこと。自作の集水施設を設置して乾燥を防ぎ、土留め、効果的な作業路配置による効率化、廃竹材利用の竹炭を散布してたけのこの早出し対策を行うなど、その創意工夫が評価されての受賞となりました。

2月25日、通潤山荘での表彰式に続いて開かれた現地研修会では、吉田さんの園地を県内の関係者が視察に訪れました。そこでは、自作の集水施設を紹介や参加者からの質問に吉田さんが答えました。



奨励賞の渡邊宏治さん光子さんご夫妻

輝く人たち

熊本県農業コンクール

「つばめよ 高い空から 教えてよ 地上の星を」
8年ほど前、あるドキュメンタリー番組の主題歌で大ヒットした曲の歌詞の一部です。その歌は、人々に空の星だけでなく、地上で輝く星（人々）に注目しようと歌っていました。言うまでもなく、この山都町にも数々の輝く人々がいます。各方面でその功績が認められ表彰が相次ぎました。ほんの一部ですが、ここでご紹介させていただきます。

「長年、販路拡大に苦勞してきたがそれが実りつつある。産地間の競争は厳しさをましているが、これまで築いた信頼を大事に、今後もゆずの品質をさらに磨いていくことが目標」と話してくださった下田一康柚子部会長。

現在40戸で組織される柚子部会。40歳代から86歳までの生産者が高品質なユズ作りを目指して、栽培管理の講習会や園地視察を行っています。部会員の栽培面積は26ヘクタールで年々拡大しており、21年度の出荷量は200トンを超えました。集出荷は9月～2月に行われ、昨年柚木地区に完成したユズ選果場で部会員総出の選果を行いました。

出荷はJAを通じて県内外の市場へも行ってはいますが、大半は大分の食品会社へゆずこしよやゆず酢の原料として出荷されています。品質が評判となり、4月からはあさぎり町のお菓子工場へのお荷も決まっています。

さらに、家庭料理であるユズ

組織農業部門優賞

JAかみましき柚子部会

「ユズ作りが生産者の健康も支えている。各方面から視察に來られるが、集荷場の活気と生産者の元気に驚かれる。確かな品質のユズを作り続けて、販売先の信頼に依っていききたい。」
長年ユズ作りで心血を注いできた下田会長は、今後も実直に取り組むことの重要性を語ってくださいました。



左から会計の酒井隆さん、下田会長、書記の杉本福男さん

新人王部門特別賞

西山幸司さん・典江さんご夫妻

（長田）

きっかけは少年時代の稲刈りのとき食べたおにぎりの味だったそうです。農業へ魅力を感じていた幸司さんは、就農以前から典江さんのお父さん俊六さんの有機農業に関心があり、帰省のたびに積極的に農作業を手伝っていました。その後六さんの引退を機に典江さんとともに山都町で農業を生業とする道へ進まれました。

化学肥料や化学農薬を一切使わない有機農業を継承して、

有機農産物JAS認定の農産物という特徴を活かして生協や卸売商などと直接取引を行っています。さらに、消費者とお互いの顔が見えるように直販所での販売も積極的に進め、ニーズの把握や有機農産物の理解促進に熱心に取り組んでおられます。

また、改善することを常に念頭に置いて、必要な作業工具の自主制作や、作業方法を見直すなど、前職を活かした創意工夫の経営が光ります。



授賞式後の幸司さん・典江さん



くしろサッポロ国体での滑り

小川くんは1月に五ヶ瀬ハイランドスキー場で行われた九州4県スキー大会ジュニアアントスラロームで総合5位、少年男子では1位という好成績を残しました。

「来シーズンはインターハイと国体への出場、そこで50位以内に入ることを目標としている」来年のシーズンを見据えて話す言葉は力強く、山都町のみならず熊本県の期待の星となっています。



一昨年の全国高校駅伝での本田匠くん地元で設置された応援垂れ幕

世界クロカン日本代表に 本田匠くん（九州学院）

本田匠くんが3月28日にポーランドで行われる第38回世界クロスカントリー選手権大会に、ジュニア男子の部の日本代表として出場します。代表選考は、千葉国際、福岡国際の両クロスカントリー大会の順位をポイント化して上位6名が選出されています。

本田くんの大会での活躍を地元から応援しようとして、仁田尾地区に垂れ幕が設置されました。花高原入り口に高々と設置された垂れ幕には、遠くポーランドへ届けたい熱い願いが込められました。

インターハイと国体に出場 蘇陽高1年の小川大策くん